

時代は変わる？

時代は大きく変わるかもしれません。

先日、日本のテレビ番組で、「学校の先生が忙しいから、宿題の採点は親がすることがこれからの常識となる」と言っていました。もし、これを教師が何年前に言っていたら、保護者から厳しい批判を浴びたに違いありません。それを今の時代はテレビ番組が主導するのです。背景には教師不足があるでしょうが、そもそも学校に学力向上が期待されなくなったことも要因でしょう。



近年、学力向上を塾などでの学習に委ねることが広がってきました。塾代の助成をする自治体もあります。教育への期待が私立や一部のトップ校に限られる傾向もあります。そのため競争が激化し、学校の宿題より塾の宿題が期待・優先されるのです。

私立高校の授業料を無償にするという政策は、家庭の経済格差を是正するものとして期待されています。ところが、この事業を推進する関係者は、「平等そうに見えても、私学の授業料の無償化というのは、教育熱心な特定の層に傾斜した補助になってしまう」とため息をついて話していました。

一方、保護者の意見を広く拾っていくと全く別の願いも見えてきます。それは、子どもを学校に通わせるだけで精いっぱい家庭の願いです。そうした家庭では、とにかく学力より激増する不登校やいじめなどだけには遭ってほしくないというものでした。こうした保護者の分化は学校の指導を難しくし、多忙化させてきました。しかし、宿題の採点を家庭に委ねることは、こうした家庭の階層分化をさらに加速化させる可能性があります。

番組では、これからは人工知能(AI)がその子に応じた学習を組んでくれるから大丈夫とまとめていました。そんな表面的なことで解決できるのでしょうか？

近年の学校は、多様化する問題に対して個別の対症療法を積み重ね、過度に多忙化し教師不足になりました。そろそろ根本的な解決を目指す時代が変わってほしいものです。

※ 個別懇談会期間中に古本市を開催します。ご家庭で不要となった本だけでなく、文具や日用品等(新しいもの)がありましたら合わせて**事務室まで**お持ちください。ご協力よろしく申し上げます。

※ 来週9/23は中学・高等部の保護者対象の家庭教育学級です(テーマ「思春期の子どもと親のかかわり方」)。参加を希望される方は図書室へお越しください。